

平成27年度「重い病気を抱える子どもの学習支援活動助成」

助成先選考結果のご報告

平成27年度の「重い病気を抱える子どもの学習支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたので、ご報告いたします。

助成先団体及び対象となる事業 (50音順)

団体名	対象事業	助成金額
特定非営利活動法人 OnPal	病院の入院児を対象とした音楽授業及びコンサートの実施	300,000円
一般社団法人 Kukuru	居宅訪問型保育事業活動の促進	2,592,226円
一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト	重い病気を抱える子どもの学びのコーディネート及び環境整備事業	2,600,000円
特定非営利活動法人 サクセスこども総合基金	治療中の子どもたちの自立をサポートするプロジェクト	1,623,400円
特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス	小児がんをはじめ、難病の子ども達の学校復帰や自立を支援する学習支援事業	1,000,000円
公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を	重い病気を抱える子どもたちの復学支援プロジェクト(児童・生徒・教師・父兄対象の復学支援学習環境作り)	1,500,000円
特定非営利活動法人 ポケットサポート	自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向 Web で結ぶ学習支援事業	1,300,000円

計 10,915,626円

公益財団法人ベネッセこども基金

2015年12月11日

【今回の助成について】

募集期間：平成27年7月1日～平成27年9月10日

助成金総額：20,000千円以内

応募数：15件

採択事業数：7件（計 10,915,626円）

助成対象となる活動期間：平成28年1月1日～平成28年12月31日

選考委員会：助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ4名の選考委員（当財団理事1名と社外有識者3名）で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

今回の審査について、および助成先に期待すること・・・耳塚理事・選考委員長より

病気の子どもたちの学習支援は、公的な支援が行き届いているとはけっしていえず、社会的な支援が必要とされている領域であることは間違いありません。むしろ差し迫った状況にある子どもたちが多数存在する、喫緊に支援が必要な領域だといってよいでしょう。支援の実績を辛抱強く積み上げていき、社会的な発信をしていくことで、人々に周知が行き届き、地域のニーズが表出するのではないかと考えております。

本財団では募集に際して事前に情報収集を行い、現段階では活動団体がまだ少数ではないかと予想していましたが、実際、応募団体は15件とやや少なめでしたが、募集趣旨に即して厳正に審査を行い、7件を採択しました。

本財団の趣旨に照らして、特に重視した観点は以下の2点です。

- ①「学び」の支援であるか
- ②モデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか

また、このテーマでの助成については、金銭的な支援に限らない、より多様な支援を、私たちは提供できる可能性があるのではないかと考えました。今後は、助成先どうしの交流会や現場の視察を通して、対話しながら、効果的な助成や支援のありかたを探っていきます。そのなかで、共通の課題に対して解決の糸口を提示できるような動きにしていきたいと思っております。

今回採択された助成団体の皆様には、本テーマで先行して活動されている団体として、地域での実績作りを期待しています。その活動がモデルとなり、よい活動が普及していく一助になれば幸いです。

助成団体からのメッセージ (五十音順)

特定非営利活動法人 OnPal

<http://onpal.org/>

九大病院及び福岡市立こども病院の入院児を対象とした音楽授業及びコンサートの実施

OnPalは、重い病気で長期入院しているこども達を対象として、プロの音楽家たちによる音楽授業やコンサートなど、体験型の学習と遊びの機会を継続的に提供しています。

OnPalの活動は、病院に対するボランティア活動ですが、活動を行う音楽家にはOnPalから謝礼を支払っており、この費用は助成金や賛助会員の会費等によって賄われています。これは、質の高い音楽授業やコンサートを継続的に提供するためには、音楽家の善意のみに頼るのではなく、一定の報酬を支払うことが必要と考えているからです。私たちの活動にご理解いただく多くの方々の善意を、プロの音楽家たちが音楽授業やコンサートという形に変えて入院児たちに届けています。しかし一方で支払う謝礼は十分なものではありませんので、活動に賛同いただく音楽家の善意に頼っている面もございます。

音楽授業が始まった時はとても苦しそうにしていたこどもが、終わるころには痛みを忘れて音楽に没頭している姿を目にすることがあります。この喜びを早く、3つ目、4つ目の病院に広げたいのですが、まだまだ賛助会員も少なく、毎年の財源確保に苦労しているのが実情です。

この度の助成金は、来年度の活動を継続する上でとても貴重なものであり、大切に活用させていただくとともに、少しでも他の病院へも活動を展開できればと考えております。

公益財団法人ベネッセこども基金にご支援いただく皆様に心より感謝申し上げます。

一般社団法人 Kukurū

<http://www.kukuruokinawa.com>

居宅訪問型保育事業活動に必要なとする物品購入

居室型訪問保育事業では、重度の障がい通常で通常の保育園に通うことができない子どもたちを、各ご家庭でお預かりし保育を行います。

子どもの障がい程度に応じて遊んだり、学習するための機材を用意することで、発達を促し可能性を広げる一助になりますが、高価なため整備することが困難な状況でした。

今回の活動助成金で、肢体不自由で筆談もできない子どもが、視線や目の動きにより意思疎通が可能になる機材の購入などに充てさせていただくことができます。これにより、ひらがなを学んだり、自分の意思を伝えて学んだりコミュニケーションを取ることが可能になり、子どもの世界を広げることができます。

どんなに障がいの重い子どもでも、遊んだり、コミュニケーションが取れるよう環境を整備し、多くの子どもたちが社会との接点をもてるような活動につなげていきたいと思っております。

一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

www.childrenshospice.jp/

TCH「マナビバ」プロジェクト:

重い病気を抱える子どものまなびのコーディネーション&環境整備事業

このたびは、貴財団の活動助成に採択いただき、嬉しく光栄に存じます。大阪に誕生する「TSURUMI こどもホスピス（TCH）は、日本初のコミュニティ型の子どものホスピスです。TCHでは命を脅かす病気を抱える子どもたちが深く生きるために「学び」を不可欠な要素として捉え、ボランティアが中心となって学びの場が提供されます。今回の力強い応援をいただいたことで、TCHを利用する病気の子どもを支える学びプログラムを具体的に開発・準備し、学生ボランティアとともに活動する人材（教師プロボノ等）を募集・養成し、従来の公教育では十分には保障されていなかった多様な学びの環境を創出・整備するための活動を進めてまいります。私たちの活動を通して、どのような状況にあっても子どもがその子どもらしく生きることの素晴らしさや、そこに学びが果たす本質的な役割を社会全体で考える契機にしたいと考えています。

特定非営利活動法人 サクセスこども総合基金

<http://nposuccess.jp/>

Step Forward Project

～治療中の子どもたちの自立をサポートする～

当プロジェクトへのご理解とご支援に、深く感謝を申し上げます。

当会では「こどもにやさしい社会をつくる」をミッションとし、難病と闘う青少年の支援と、医療者の支援に取り組んでいます。難病に罹患した子どもたちは、強い治療による後遺症や成長障害、再発の恐怖、心的外傷と向き合っています。

しかし、日々厳しい治療に臨みながらも、子どもたちは広い世界で活躍する将来を見据えています。彼らの知的好奇心や就学意欲を高めることで、その生活を実りあるものにすることが可能です。

貴財団のご支援のもと、子どもたちが急激に変化する社会を体感し、積極的に自立と社会参画を目指すことが出来る様、取り組みを進めて参ります。そして、困難を乗り越えた子どもたちがリーダーシップを発揮して、様々な分野で活躍できる社会の構築を目指します。

今後とも皆様のお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人チャイルド・ケモ・ハウス

<http://www.kemohouse.jp/>

小児がんをはじめ、難病の子ども達の学校復帰や自立を支援する学習支援事業

この度は、本事業についてご支援下さり、誠にありがとうございます。

小児がんをはじめ、難病の子供たちの入院や自宅療養は1年以上かかることも少なくありません。その間の学習と治療の両立は、非常に困難を伴います。

その子の治療や病気の状況を把握しつつ、病状に一喜一憂させられる患児と家族の気持ちに寄り添いながら、学習支援をすることが大切ですが、現状はこのような支援は十分とは言えません。

今回の助成金によって、医療・福祉関係者と教育者、そして当事者が力を合わせて、病院にいても自宅療養中でも途切れなく学習でき、またその学習を通して病気になっても将来の夢や希望をもって自立していくモデルを作っていきたいと思っております。

引き続きどうぞよろしくお願い致します。

公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を

<http://www.yumewo.org>

(Facebook : <https://www.facebook.com/yumewo.org/>)

「” 生きる” と” 学び” について皆で考えよう！」重い病気を抱える子どもたちの復学支援プロジェクトー児童・生徒・教師・父兄対象の復学支援学習環境作り-

本助成事業は、皆様のご協力を得て、重い病気を抱える子ども達が、長期入院から復学をした際に学校等で起きる「いじめ」や「偏見」「差別」等を軽減し、復学した子どもたちがより良い環境で学習すると同時に、彼等を支える健常の子ども達が、より当事者への理解を深めるとともに、ともに学ぶことで、彼等自身の「いのちへの畏敬の念を育てる」機会を提供することを目的としています。

社会の皆様とともに、「いま、を生きる」ことを大切にしながら、より豊かな社会を作っていくことを目指して参りたいと思います。

特定非営利活動法人 ポケットサポート

<https://www.facebook.com/road.to.pocketsupport>

病気の子どもの学習・復学支援自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向 Web で結ぶ学習支援事業

このたびは、ポケットサポートをご支援いただきありがとうございます。ポケットサポートでは、2011年より、病気の子どもの学習支援を行ってきました。長期の入院・療養で学習に空白ができてしまう子どもたちが多くいます（そういった空白を「ポケット」と呼んでいます）。体調の良し悪しで、その時その時の状況が変わる中、子どもたちに合わせた柔軟な対応のできる学習支援者や学習環境が必要です。さらに、院内学級のように、闘病中の「仲間」とつながることで子どもたち自身の闘病意欲を引き出すこともできます。「よし、自分もがんばろう」と子どもたちが思え、次の一歩を踏み出すエネルギーのようなものが生まれます。

ポケットサポートでは、入院中の子どもの院内学級でのサポートやベッドサイドでの学習、退院後もすぐに復学できない子どもへの学習支援を行ってきました。また、季節に合わせ病気の子どものを集め交流イベントも行っています。しかし、市内から遠い遠隔地で自宅療養している子どもたちの学習支援は困難でした。今回の助成によりこの遠隔地の子どもたちへの学習・復学支援もできるようになります。

これからも病気による困難を抱えた子どもたちの支援を行い、学習の空白を埋め、子どもたちが他者との交流によって社会体験を積み、将来への希望をもって生活できるよう、支援していきたいと思っています。スタッフ、ボランティアが力をあわせて頑張りますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。